

第1 事業の概要

平成27年度は、一般財団法人としての3年度であり、継続事業として「日本学の総合研究・普及」、「日本学に関する講演会・講習会の開催」、「日本学に関する雑誌・図書の刊行」の3事業を実施し、当協会の目的である学術文化の発展に寄与すべく尽力したところである。

第2 事業の実施状況

1 日本学の総合研究・普及(継続事業1)

本事業は、広範かつ多岐にわたる日本学の総合研究を研究者の個人研究、共同研究あるいは研究会を通じて行うとともに、その普及を図るものである。

(1) 研究及び研究会

研究者は、大学教授、高校教諭、評論家などの本会の研究員をはじめ、本会の趣旨に賛同する研究者であるが、専任研究員として委嘱した14名については、「協会創立60周年記念事業実施計画」で指定した研究項目の研究を引続き行ったところである。

研究会については、東京における学生対象の古典講読の研究会を実施したほか、地方(水戸、伊勢、岐阜、大阪等)においても地域の特性に応じた定例研究会を行った。

(2) 公開研究会

平成23年度から実施している公開研究会は、平成27年度も引き続き「日本の近現代戦史に学ぶ会」と「先哲に学ぶ会」を実施した。

「日本の近現代戦史に学ぶ会」は、「日米戦争の史実に戦いの本質を考える」をテーマに、下記の通り永江太郎氏が、発表を行った。

日時	発表者	演題
第17回 H27.6.13(土)	元防衛研究所主任研究官 永江太郎	「インパール作戦」 —ビルマの決戦—
第18回 H27.9.12(土)	元防衛研究所主任研究官 永江太郎	「レイテ決戦」 —航空特攻のはじまり—
第19回 H27.12.12(土)	元防衛研究所主任研究官 永江太郎	「硫黄島の激戦とその影響」
第20回 H28.3.19(土)	元防衛研究所主任研究官 永江太郎	「日米最後の決戦「沖縄作戦」とその特色」

「先哲に学ぶ会」は、「明治維新を彩る幕末の志士」をテーマに、下記の通り4氏が、それぞれの演題について発表を行った。

日 時	発 表 者	演 題
第 15 回 H27. 4. 18(土)	日本文化大学教授 堀井純二	「明治維新を彩る幕末の志士」 —有馬新七一
第 16 回 H27. 7. 18(土)	(一財)日本学協会常務理事 永江太郎	「多くの人々から信頼された維新の英傑」 —西郷隆盛—
第 17 回 H27. 11. 21(土)	元大阪芸術大学教授 梅田昌彦	「明治維新を彩る幕末の志士」 —梅田雲浜—
第 18 回 H28. 1. 23(土)	植草学園短期大学名誉教授 水戸史学会理事 但野正弘	「明治維新を彩る幕末の志士」 —佐久良東雄—

(3) 研究成果の普及

研究成果の論文等は、学術誌『藝林』と機関誌『日本』に発表した。

以上の研究事業の概要は、下記のとおりである。

研究者の学会発表回数：12編	『藝林』発表論文
研究者の論文発表回数：55編	『日本』発表論文
定例研究会	開催数57回 参加者：約530名
公開研究会	開催数 8回 参加者： 380名

2 日本学に関する講演会・講習会の開催(継続事業2)

本事業は、日本学普及のために行っている講演会、藝林会学術研究大会、講習会の事業である。

(1) 講演会

平成27年度は、東京講演会(第12回)を平成27年11月23日(日)、学士会館において、「二つの罫に直面する中国経済」と題して(講師 島根県立大学名誉教授 今岡日出紀)、また大阪講演会(第13回)は同年10月25日(日)、国民会館において「今、ここにある危機 ～日本の安全保障と中国～」と題して(講師 京都大学名誉教授 中西輝政)開催した。

(2) 藝林会学術研究大会

藝林会学術研究大会は、毎年テーマを設けて開催し、記念講演、研究発表等を行っているが、第9回目となる平成27年度は、平成27年10月17日(土)、常磐大学コミュニティー振興学部U棟2階(水戸市)において『神皇正統記』をめぐる諸問題を主題に、基調講演(「神皇正統記と愚管抄」皇學館大学特別教授 白山芳太郎)、研究発表(「南朝史受容と神皇正統記」日本学術振興会特別研究員 勢田道生、「近世思想史と神皇正統記—水戸学を中心に」水戸史学会会員 梶山孝夫、「近世思想

史と神皇正統記一天野信影を中心に」元愛知県立高校教諭 廣瀬重見、「南北朝正
閏論争と神皇正統記」千葉大学准教授 山口道弘)及び相互討論を行った。(発表論
文等は、『藝林』第65巻第1号に掲載する。)

(3) 講習会

講習会は、日本学を高校生や大学生、社会人等の青少年に普及するために2泊3
日の合宿形式で実施しているが、平成27年度も「わが国と日本人のあり方を考える」
をテーマに奈良・大阪で実施した。

内容は、大学教授等各界の専門家による講義、講話をはじめ参加者の相互討議や
意見交換、史跡見学等により日本の歴史や先哲について理解が深まるようきめ細か
い指導を実施した。

(4) 開催結果

定例講演会（東京・関西）	参加者： 189名
藝林会学術研究大会	参加者： 58名
講習会	参加者： 60名

(5) 広報活動

定例講演会、藝林会学術研究大会、講習会の開催は、ホームページを始め、その
都度、新聞(『産経新聞』)及び月刊誌(『正論』)で、会員以外にも広く参加を呼びか
ける広告を実施した。

3 日本学に関する雑誌・図書の刊行(継続事業3)

本事業は、日本学に関する研究成果の発表並びに普及を図るため、学術誌『藝林』
と機関誌『日本』を発行するとともに日本学に関する図書の刊行および出版助成等
を行うものである。

(1) 学術誌『藝林』の編集・刊行

『藝林』は、国民の道義を高揚し日本文化を向上させるため、真摯で自由な学問
的研究を行うことを目的に設立された藝林会の学術誌である。歴史・文学・思想な
どの人文系学問の研究成果を発表する場として、会員のみならず広く一般から寄稿
された論文を掲載している。平成27年度は、第64巻第1・2号を刊行した。

(2) 機関誌『日本』の編集・刊行

『日本』は、広く日本学を普及するために刊行している月刊誌である。
執筆者は、評論家、大学教授をはじめ各界の専門家、有識者等で、内容は政治、経

済、歴史、文学など幅広い分野にわたっているが、投稿も掲載している。平成27年度は第65巻第4号～第66巻第3号を刊行した。

販売・頒布は、定期購読者以外にも、講演会・講習会や公開研究会で実施したほか、有識者への寄贈や学生には購読料を半額とするなどして普及に努めた。

(3) 図書の刊行

ア、図書は、『平泉澄著作集』の電子化刊行の研究と準備を実施した。

イ、『続平泉澄博士神道論抄』は平成28年度に刊行する。

(4) 研究成果発表関係刊行物

ア 定期刊行物

名 称	頁 数	発 行 部 数	備 考
藝 林	250頁	400部	年2回刊行
日 本	52頁	1,150部	年12回刊行

(5) 広報活動

『藝林』と『日本』の広報は、年に6回新聞広告（『産経新聞』）等を行った。